

藤村全集

第十五卷

藤村全集

第十五卷

筑摩書房版

藤村全集第十五卷

昭和四十三年六月十五日發行

著者 島崎藤村

發行者 竹之内靜雄

發行所

東京都千代田區神田小川町二ノ八
株式會社 筑摩書房

電話 東京卽一七六五一(代表)
振替口座 東京四一一三番

第十五卷 目次

大黒屋日記抄

一	(壹番日記)	七
二	(貳番、五番日記)	七
三	(六番、十三番日記)	一三
四	(十四番、十六番日記)	三三
五	(十七、十九番日記〔十八番缺〕)	六五
六	(二十、二十一番日記)	三三
七	(二十二、二十三番日記)	七三
八	(二十四、二十五番日記)	四三
九	(二十七、二十八番日記〔二十六番缺〕)	四七

備忘錄	五九
-----	----

消息集 別冊ノ一	五二
----------	----

消息集 別冊ノ二	五七
----------	----

消息集 別冊ノ三	六一
----------	----

島崎氏年譜	六五
-------	----

島崎氏年譜 一	六七
---------	----

島崎氏年譜 二	六七
---------	----

覺書	七七
----	----

ノート	七四
-----	----

解題	七五
----	----

「夜明け前」

ノート

大黑屋日記抄

凡例

一、本編は、原史料である「大黒屋日記」と照合して作成した。

一、「大黒屋日記抄」の記事中、伏字・読み誤り・省略、または、意識的な採り残し等、「大黒屋日記」の原文とのあいだにかなりの異同が見られる。よって別に掲げる記號を以て補足・訂正し、また、必要と思われる個所については、*印の下に、原文の記事をも併收した。著者は抄録に際し、かなり自由に要約しているので、内容に特に問題なき限り、原文は再録していない。

一、「大黒屋日記抄」中の明らかな字句の誤脱は編集部において補訂し、連続してまぎれやすい人名・地名には、(・)を付して區切りを明らかにした。なお、字體は原則として、正字に統一した。ただし、通行の文字はこの限りではない。また、「才」は「歳」に統一した。人名のうち、例えば、「島崎吉左衛門」などの「衛」はほとんど「エ」と略記されているが、正字に改めた。

一、補足・訂正の際の記號は左のとおりである。

イ、伏字、または読み誤り等、原文の表記と異なるものには、その字句に傍點(・)を付し、傍點の下に「」を以て原文を挿入した。

ロ、採り残し、または簡略にすぎて、意味の通じにくいと思われる場合は、へを以て原文を補足した。

ハ、編集部による訂正・補足・註は、《》を以て示した。

一、「大黒屋日記抄」は、原則として青インクで書かれたものであるが、赤・青鉛筆の場合もある。よってその區別を左のごとくにした。

イ、ゴシック體の文字、傍點の・・・、――、○、△等、黒印または線の太いものは、赤鉛筆で書かれていることを示す。
ロ、傍點の。、。、――、○等、線の細いものは、青インクで書かれていることを示す。青鉛筆で書かれているものは別に註記した。

一、「大黒屋日記」の原文中、末尾に句点のあるものは、そのあとになお文章が続いていることを示す。末尾に句点のないものは、文章がそこで切れていることを示す。

二、「大黒屋日記」の原文中、「至而」「仍而」等の「而」は、「て」に改め、「至て」「仍て」とした。

靜乃草屋

文政九年
同十年
同十一年

大脇隠居二十八番日記より

大黒屋日記抄一

舊曆		新曆	
小	大	小	大
正—三—五—六—九	十二—二—四—七—八—十—十一	二—四—六—九—十一	一—三—五—七—八—十—十二

○ ○ ○
蠟 行 提
燭 燈 灯

昭和三年夏日

静乃草屋

この山家曆は舊島崎の隣家大脇氏隱居（信常氏の父、兵右衛門氏の祖父）の一番日記より抄録せしもの、一番日記は文政九年同じく十年、十一年の三年間の日記帳より成る

昭和三年六月、ある創作を準備する頃
その参考にもとこれを寫す

（大脇隱居日記とは言ひながら筆者大脇兵右衛門氏がこの一番日記をつけ始めしはその三十歳の頃也）

文政年代（壹番日記）

大脇隠居年内諸事
日記帳より（但し舊曆）

朱書の分は昭和三年度太陽曆との對照

山家曆

（大脇信興二十七番日記のうち）

《註リ前出、七頁の扉では、「大脇隠居二十八番日記より」となっている。七頁の扉（原ノート、表紙）では、紫色の用紙の上に白紙が貼られており、七を八に訂正したもののように見受けられる。したがって、この項の七は訂正洩れと思われる》

正月 小					正月 一	
28 六	27 五	26 四	25 三	24 二	23 正月	朔日雨 ○天氣
同 ○雪 △天氣	同	天氣 △風吹雪	同	天氣	一月六日 一月二十一日 小寒 大寒	御年禮 ×定例の通り仲間中袴着用にて御年禮相動申候(1)
質調べ(5) 峠村年禮、質調べ(2) 荒町年禮(3) ×氏神へ参詣、新茶屋まで年禮、五兵衛方にて仲間中とろく汁馳走に相成晝過か へる(4)					文政九年 同十年○印 同十一年△印 他の年より補遺×印	
山口村年禮(例年) △中津川十八屋清助殿年玉にお出お泊り ×本陣へ晝飯に招かれ……(自祐)と兩人(6)					△註上欄大活字の「正月」は青鉛筆の丸で圈んである。以下各月の場合も同様	
△善三方後妻縁組につき山口村より客人ありて披露に招かる、中津川清助殿この日 おかへり 荒町年禮(10)					△夜下町喜三方へ招かる △山口村年禮(7) ×飯田おなを吉書始め大筆一枚参り候(8) ×福島御年禮、勝七出勤(9) *飯田仙吉より手紙并におな吉書始め大筆壹枚参り候	